

TDK Today

株主通信 Vol.75

129期 通期

2024/4/1 ▶ 2025/3/31

特集

いよいよ開幕！

東京2025 世界陸上 × TDK

TOPICS

- 光通信に画期的な新技術
「スピノフォトディテクタ」を開発
- 視覚障がい者の移動を革新する
スマート白杖と「TDKのセンサテクノロジー」

株主の皆様へ

ICT市場及びHDD市場の堅調な需要継続により 売上高・営業利益ともに過去最高を更新

2025年3月期連結業績について

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2025年3月期（2024年4月1日から2025年3月31日まで）の連結業績についてご報告申し上げます。

当期における世界経済は、北米では底堅く推移しているものの、欧州や中国では引き続き経済が減速傾向にあることに加え、中東地域情勢の緊迫化も影響し、地域毎に濃淡がある不安定な状況が継続いたしました。また、為替レートは、対ドルやユーロを中心に円安傾向が継続いたしました。当社の業績に影響を与えるエレクトロニクス市場においては、ICT（情報通信技術）関連製品の生産が前期比で増加し、スマートフォンやノートPC、タブレット端末の需要が堅調に推移いたしました。また、データセンター向けニアラインHDD（ハードディスクドライブ）の需要も大きく回復いたしました。一方、産業機器市場では設備投資需要が低調に推移するとともに、自動車市場においてもBEV（電気自動車）の需要が停滞し、期初に想定していた部品需要を下回る結果となりました。

このような経営環境の中、当期において、受動部品セグメントは、自動車市場向け需要の減少等により減収となったものの、センサ応用製品、磁気応用製品、エネルギー応用製品の3つのセグメントで、ICT市場における部品需要の回復や新製品販売貢献等により前期比で増収となりました。その結果、連結売上高は前期比4.8%増の増収、また、利益についても、大幅な円安やICT市場向け製品の出荷増に加え、合理化や前期に行った構造改革効果等もあり、営業利益は前期比29.7%増の増益となり、売上・利益ともに過去最高を更新いたしました。

2025年3月期 連結業績概要

売上高	2兆2,048億円（前期比 4.8%増）
営業利益	2,242億円（同 29.7%増）
税引前利益	2,378億円（同 32.7%増）
親会社の所有者に 帰属する当期利益	1,672億円（同 34.1%増）

2026年3月期の連結業績見通しについて

当期の世界経済は、米国新政権による関税措置の度重なる変更等により、見通しが非常に不透明な状況にあります。このような状況の中、通期業績予想の前提となる主要デバイスの生産台数については、当初予定していたベースシナリオに加え、関税措置による米国内での主要デバイスの需要減少を想定したリスクシナリオを策定しました。2026年3月期の連結業績予想は下記の通りレンジにて公表いたしました。

なお、連結業績予想は、対ドル為替レート140円を前提とし、前期の期中平均為替レートである153円からの円高影響を織り込んでおりますが、右記のベースシナリオに基づくセグメント別通期売上高イメージは、為替変動を除いた増減でご説明いたします。

2026年3月期 連結業績予想（2025年4月28日公表）

	2026年3月期 通期予想	2025年3月期比 増減
売上高	2兆1,200億円 ～2兆2,200億円	-3.8% ～ -0.2%
営業利益	1,800億円 ～2,250億円	-19.7% ～ 0.4%
税引前利益	1,930億円 ～2,380億円	-18.8% ～ 0.1%
親会社の所有者に 帰属する当期利益	1,350億円 ～1,700億円	-19.2% ～ 1.7%

※2026年3月期業績予想はレンジにて公表しています。

※通期の平均為替レートは対米ドル140円、対ユーロ155円を想定しています。

■受動部品

ICTおよび産業機器市場向けについては販売減が見込まれるものの、xEVなど自動車市場の需要拡大に伴い、MLCC（積層セラミックコンデンサ）を中心に自動車市場向けの売上増を想定しており、セグメント全体では増収を予想しています。

■センサ応用製品

温度・圧力センサおよび磁気センサは自動車市場向け、MEMSセンサはICT市場向けおよびゲーム機向けの販売増加を見込んでおり、全体では増収となる予想です。

■磁気応用製品

HDDの生産台数は前期比微増を見込んでおりますが、ニアライン用HDDの生産台数は増加を想定しています。これにより、HDDヘッド及びHDDサスペンションの販売増加を見込んでおり、全体では増収となる予想です。

■エネルギー応用製品

引き続きスマートフォン向けを中心としたICT市場向け小型二次電池の需要が好調に推移すると見込み、全体で増収を予想しています。

2026年3月期 ベースシナリオに基づくセグメント別連結売上高増減イメージ

セグメント区分	2025年3月期 通期実績	2026年3月期 通期予想（前期比）	
		為替レート 2026年3月期想定	為替レート 2025年3月期基準
受動部品	5,596	-1 ～ +2%	+4 ～ +7%
センサ応用製品	1,895	+4 ～ +7%	+11 ～ +14%
磁気応用製品	2,236	+1 ～ +4%	+9 ～ +12%
エネルギー応用製品	11,765	-5 ～ -2%	+3 ～ +6%
その他	556	—	—
合計	22,048	22,000	+5 ～ +8%

2026年3月期の配当の見通しについて

2026年3月期の配当金の見通しは下記の通りです。今中期経営計画において、配当性向35%を目途に株主還元を行っていきますが、現時点では不透明な経済環境を考慮し、2025年3月期年間配当金と同額の30円を予定しております。リスクシナリオでは、利益が大きく減少することを想定していますが、年間配当金30円は維持する方針です。この場合の配当性向は約42%となります。

当期の経済状況は非常に見通しが難しく、世界経済の成長が鈍化することが懸念されております。このマクロ環境に対して可能な限りの準備は継続していきますが、当社は引き続き、自らがコントロールできることに集中し、品質・生産性・技術力等の強化に取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長執行役員CEO 齋藤 昇

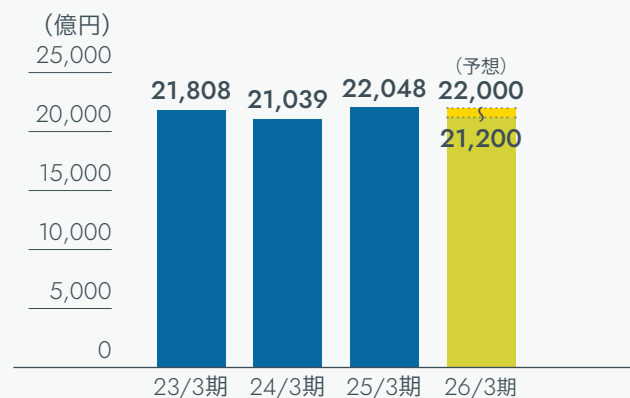
2026年3月期 1株当たり配当金の見通し

中間配当	(見通し) 15.00円 (前期実績 14.00円)
期末配当	(見通し) 15.00円 (同 16.00円)
年間配当	(見通し) 30.00円 (同 30.00円)

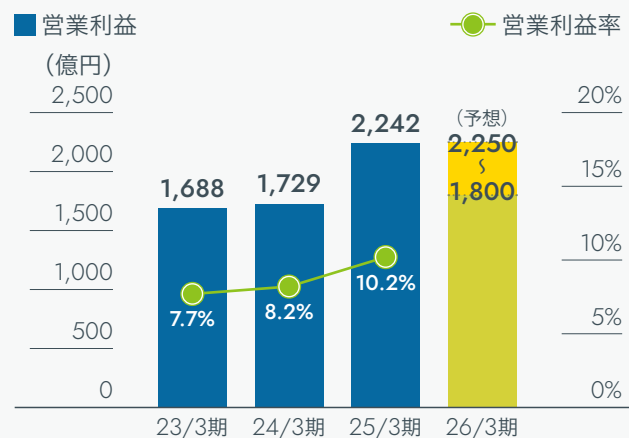
※当社は、2024年10月1日を効力発生日として、普通株式1株を5株に分割いたしました。2024年12月3日にお支払いいたしました前期の中間配当金70円は、当該株式分割後の金額に換算しますと14円に相当し、期末配当とあわせた年間配当金は、1株につき30円となります。

業績ハイライト - 1 主要財務指標等の推移（予想：2025年4月28日発表）

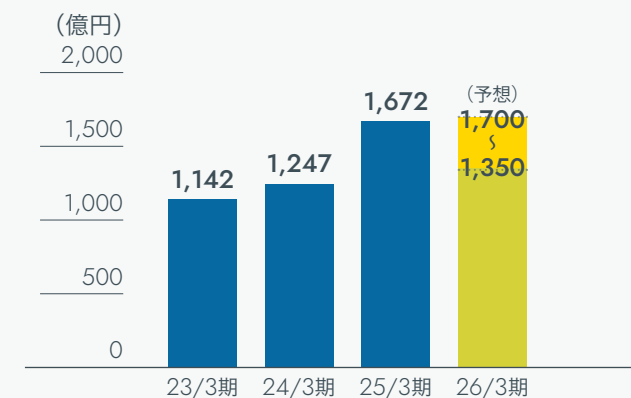
売上高



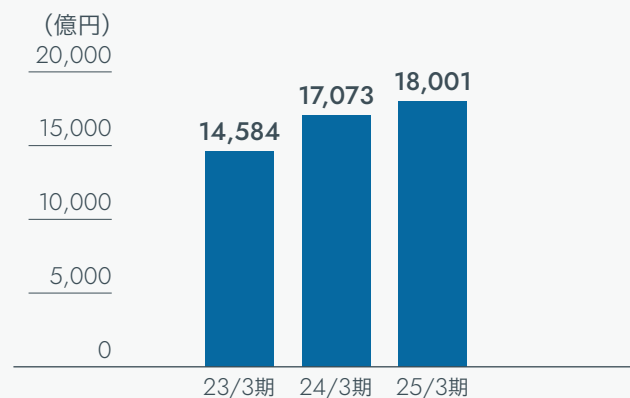
営業利益及び営業利益率



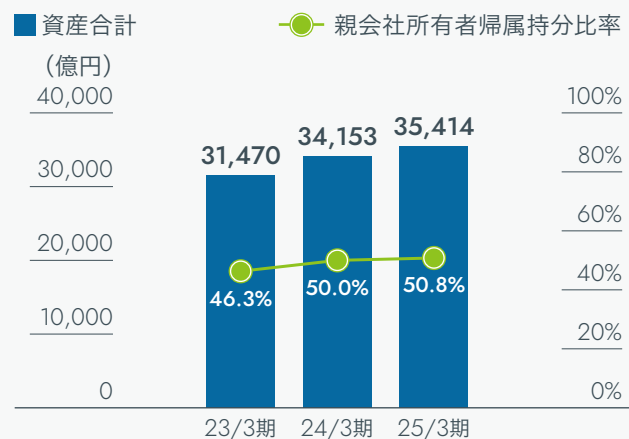
親会社の所有者に帰属する当期利益



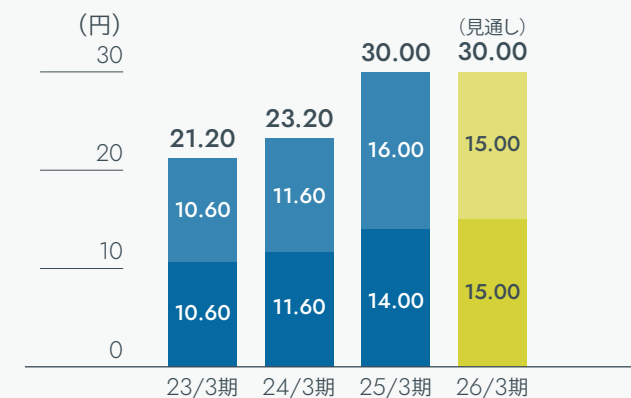
親会社の所有者に帰属する持分



資産合計/親会社所有者帰属持分比率

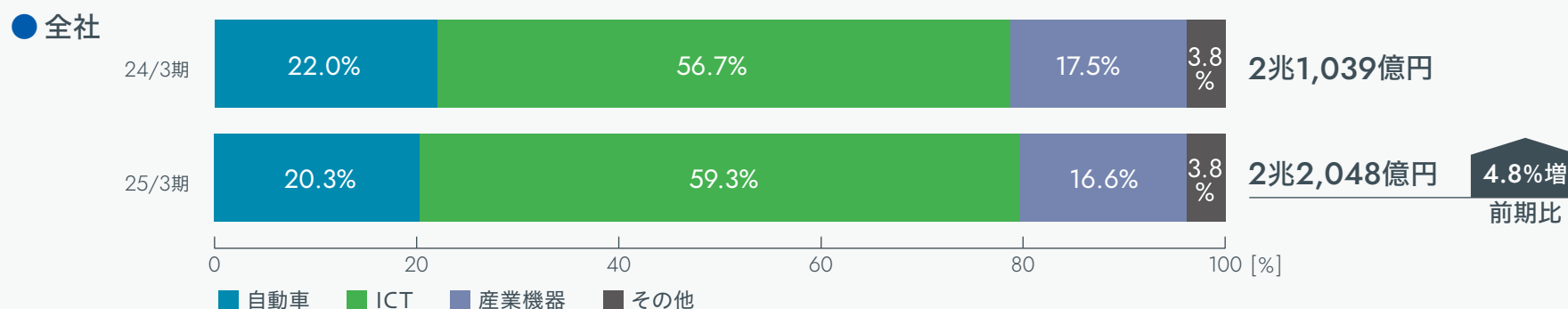


1株当たり配当金

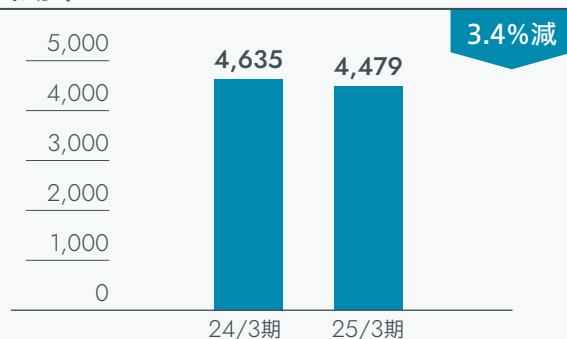


(注) 1. 1株当たり配当金は、2024年10月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行った換算後の金額を記載しています。
2. 2026年3月期業績予想はレンジにて公表しています。

業績ハイライト - 2 重点分野別売上の状況（2025年3月期）



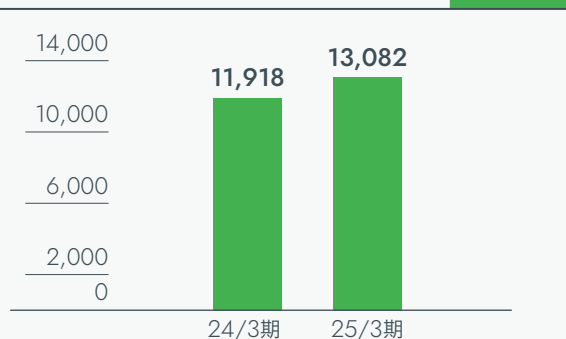
自動車



市場分野別ポイント

- BEV（電気自動車）市場が停滞し、期初に想定していた部品需要を下回る結果となり、受動部品およびセンサ応用製品の販売が減少しました。

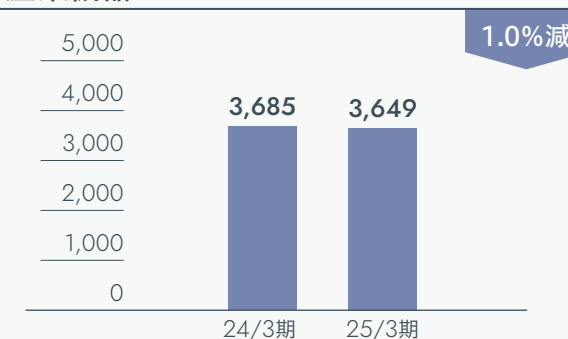
ICT



市場分野別ポイント

- スマートフォンをはじめとするICT市場における部品需要の回復や新製品販売貢献等により、センサ、HDDヘッド及びHDDサスペンション、小型二次電池の販売が増加しました。

産業機器

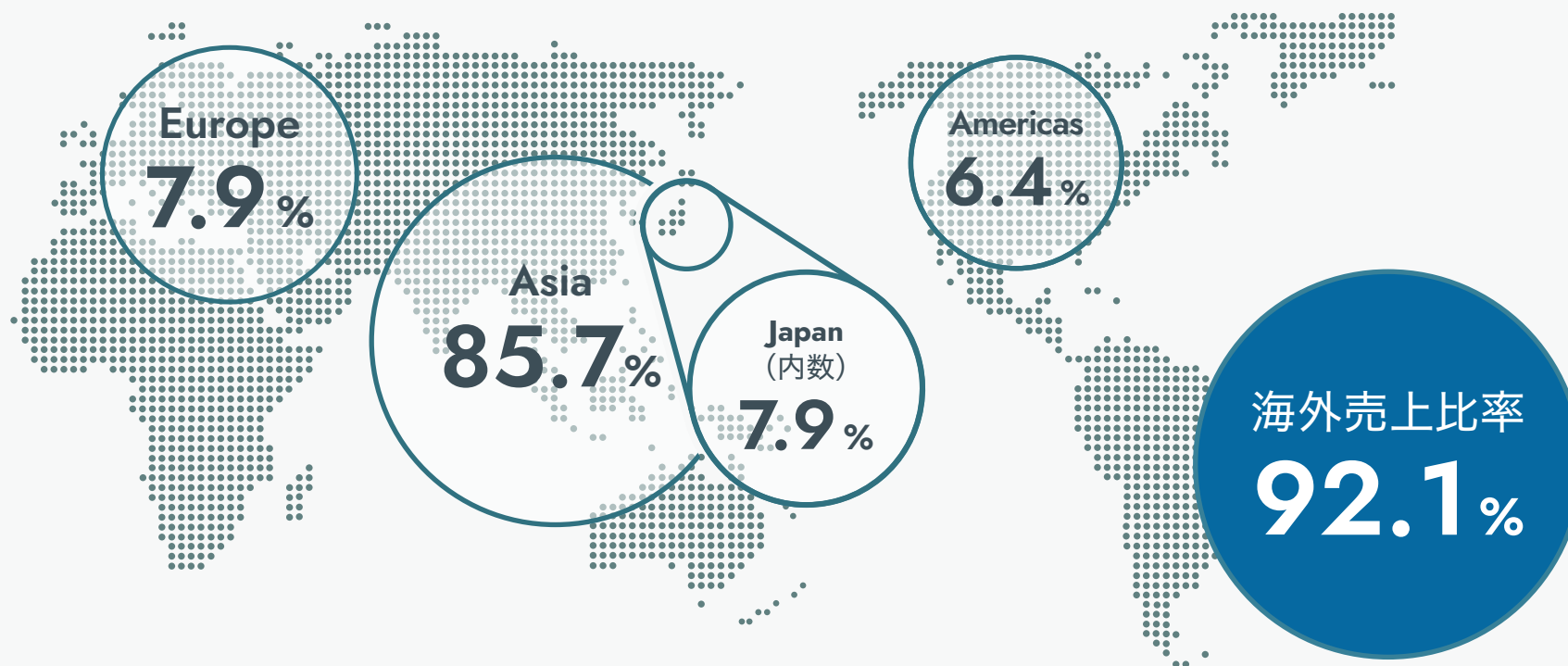


市場分野別ポイント

- 設備投資需要が低調に推移し、産業機器用電源、受動部品およびセンサの販売が減少しました。

業績ハイライト – 3 地域別売上構成（2025年3月期）

TDKグループはグローバルに事業を展開しており、海外売上比率は90%を超えています。
また、地域別では、日本を含めたアジア地域が85.7%と、最も大きな割合を占めています。





いよいよ開幕！東京2025 世界陸上 × TDK

Transformation starts from the passion within

開催期間：2025年9月13日(土)～21日(日) <https://www.tdk.com/ja/athletic/index.html> 

2025年9月、東京・国立競技場で第20回世界陸上競技選手権大会が開催されます。TDKは大会を協賛し、アスリートたちの挑戦を応援するとともに、テクノロジーを通じてより良い未来社会の実現に取り組む企業姿勢を発信していきます。



会場となる東京・国立競技場



大会ロゴとモットー

- 東京での開催は1991年以来34年ぶり
- 200以上の国と地域から約2,000名のアスリートが参加予定
- 競技は全49種目

東京2025世界陸上マスコット
「りくワン」



世界陸上競技選手権大会とTDK

WORLD ATHLETICS
CHAMPIONSHIPS
TOKYO 2025

WORLD ATHLETICS PARTNER

陸上競技における世界最高峰の舞台である世界陸上。TDKは1983年の第1回ヘルシンキ大会から、オフィシャルパートナーとして大会を支えてきました。東京大会においても、国立競技場にはTDKロゴマークのLEDサインボードが掲出される予定です。当社は、2025年に創業90周年を迎えます。この記念すべき年に開催される東京2025世界陸上を様々な活動を通じて応援し、大会を盛り上げていきます。

TDKブランドを全世界にアピール

TDKは、様々な活動で世界陸上をサポートしています。男子選手のゼッケンスponsorや、世界新記録プログラムへの協賛、TDKサインボード掲出などを実施します。さらに、センサ技術を活用して競技の魅力を引き出す、世界陸連との技術コラボレーションも発表しました。また、今大会では、世界で活躍する選手を通じて未来を担う同世代の方たちを応援したいという思いから、200mに出場する鵜澤飛羽（うざわ とわ）選手（日本航空所属）をTDKのアスリートアンバサダーに任命。鵜澤選手の活躍にも期待が集まります。



ブダペスト大会で4x400m混合リレーの世界新記録達成を称える齋藤昇社長



TDKアスリートアンバサダー
鵜澤飛羽選手（日本航空所属）

LEDボードにTDKの電源製品が採用

2022年のオレゴン大会以来、100mスタートラインの後方にはTDKロゴが大きく輝くLEDサインボードが設置されています。このボードには、LEDを鮮やかに表示させるために必要な電源製品として、TDKの産業機器用電源（AC-DCコンバータ）が搭載されています。高い変換効率と優れた信頼性を誇り、世界中のスタジアムや看板などに広く利用されています。



TDKのロゴマークが輝くLEDサインボード



LEDサインボードの表示を支える
TDKラムダのAC-DCコンバータ

クイズに答えて、世界陸上観戦チケットを当てよう！

TDKと世界陸上に関するクイズに答えて、抽選で45組90名様に東京 2025世界陸上の観戦チケットが当たるキャンペーンを実施！

ご応募は 2025年7月31日まで。詳しくはTDK Webサイトの [キャンペーンページ](#) をご覧ください。



光通信に画期的な新技術 「スピノフォトディテクタ」を開発

生成AIや次世代の通信技術「Beyond 5G / 6G」の普及に向け、高速光通信・光配線への需要が急速に高まっています。こうした中、TDKと日本大学の研究チームは、光を高速で検知する新しいデバイス「スピノフォトディテクタ」の実証に世界で初めて成功しました。従来の光検出器（フォトディテクタ：光信号を電気信号に変換することで光を検出する）と異なり、半導体を使わない画期的な技術で注目を集めています。

詳しくはTDK Web [Featured Stories記事](#) [🔗](#) をご覧ください。

スピノフォトディテクタとは？

生成AIの発展とBeyond 5G/6Gの実現には、光通信技術の進化が重要です。生成AIは高性能なGPUをネットワーク化するために高性能な光通信が必要であり、Beyond 5G/6Gでは光ファイバー伝送技術が鍵となります。この技術は超高速・大容量通信を支えるために必要ですが、従来のフォトディテクタは高速化すると感度が落ちるという課題があります。

そこで、TDKは、これまで一般的だった半導体の代わりに、「磁性」を使って光を検出する新しいデバイス「スピノフォトディテクタ」を開発しました。TDKがHDD用磁気ヘッドの開発で培った技術を応用したもので、これまで難しかった赤外線から可視光まで幅広い波長の光を、高速かつ高精度で検出できるようになりました。

半導体フォトディテクタとスピノフォトディテクタの比較

技術	反応速度	実装	波長
半導体 フォトディテクタ (InGaAs:インジウムガリウムヒ素)	 長距離光通信	 光電融合に不適	 非常に狭い
半導体 フォトディテクタ (Si:シリコン)	 シリコンフォトリソ	 シリコンフォトリソ	 非常に狭い
スピノフォトディテクタ	 光通信・光配線に適している	 光電融合に適している	 赤外線～可視光

次世代の光通信技術を支え、DXを加速

これまでのフォトディテクタは、可視光を検出する能力や、素子の小型化に限界がありました。一方、スピノフォトディテクタは、広い範囲の光をすばやく、正確に検出できます。また、コンパクトなサイズで、基板なしでも使えることから、設計自由度が高いという特徴を備えています。将来的には、生成AIや高速通信の分野をはじめ、AR/VR用スマートグラス、カメラ用イメージセンサ、光を使った分析装置など、さまざまな分野への応用が期待されています。

TDKは、スピノフォトディテクタの提供を通じて、次世代の光通信技術を支えるとともに、Beyond 5G/6Gや生成AIといった、これからのDX（デジタルトランスフォーメーション）を加速させていきます。

スピノフォトディテクタは、磁性という新しい動作原理で実現したフォトディテクタです。TDKが培ったHDD用磁気ヘッドのウェアプロセス技術を応用して実現した製品であり、これまでの常識を覆す素子であり、世界的な半導体不足という課題解消の一翼を担える製品だと考えています。

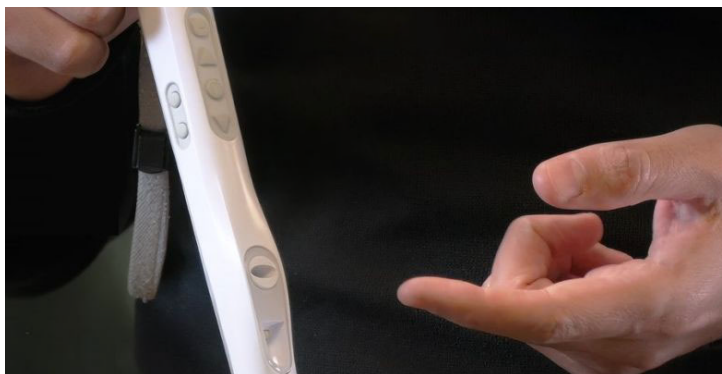
TDK 株式会社 技術・知財本部
応用製品開発センター 柴田 哲也



視覚障がい者の移動を革新する スマート白杖と 「TDKのセンサテクノロジー」

視覚に障がいがある人の外出をより安全で快適にするため、イギリス・WeWALK 社が開発した次世代の白杖（はくじょう）「Smart Cane 2」が注目を集めています。この白杖には、3種類のセンサを含むTDKの6つの高性能デバイスが搭載されており、周囲の状況をより正確に把握できます。

自由な移動をサポートする「Smart Cane 2」



白杖は、周囲の様子を探り、障害物への衝突を防ぐと同時に、目が不自由であることを周囲の人に伝える大切なアイテムです。「Smart Cane 2」は、最新のセンサ技術を活用して、視覚に障がいのある人の歩行をサポートする最先端の白杖です。障害物の存在を超音波センサで検知したり、目的地までのコースを音声で案内したりすることが可能です。この画期的な白杖は、「TIME 誌の2023年の発明ベストリスト」や「エジソンアワード金賞（2019年）」など、世界的にも高い評価を受けています。最新のテクノロジーによって、視覚に障がいがある人に「移動の自由」を拓けています。

スマート白杖を可能にしたTDKのセンサ技術

Smart Cane 2にはTDKのセンサ技術が多数搭載されています。障害物を高精度で検知する「超音波 ToF^{*1} センサ」、正確な音声認識を支える「MEMS^{*2} マイクロフォン」、白杖の細かな動きや傾きなどを検知する「IMU^{*3} モーションセンサ」などが連携することで、より安心して歩くためのパートナーになります。

これらのセンサ製品はTDK独自のMEMS^{*2}技術により業界随一の小型・低消費電力化を達成しており、白杖のスリム化・軽量化にも貢献しています。TDK製品を通じて、多様な人々が活躍する社会への貢献が期待されます。

^{*1}Time-of-flightの略称

^{*2}Micro Electro Mechanical Systems（微小電気機械システム）

^{*3}Inertial Measurement Unit（慣性計測装置）



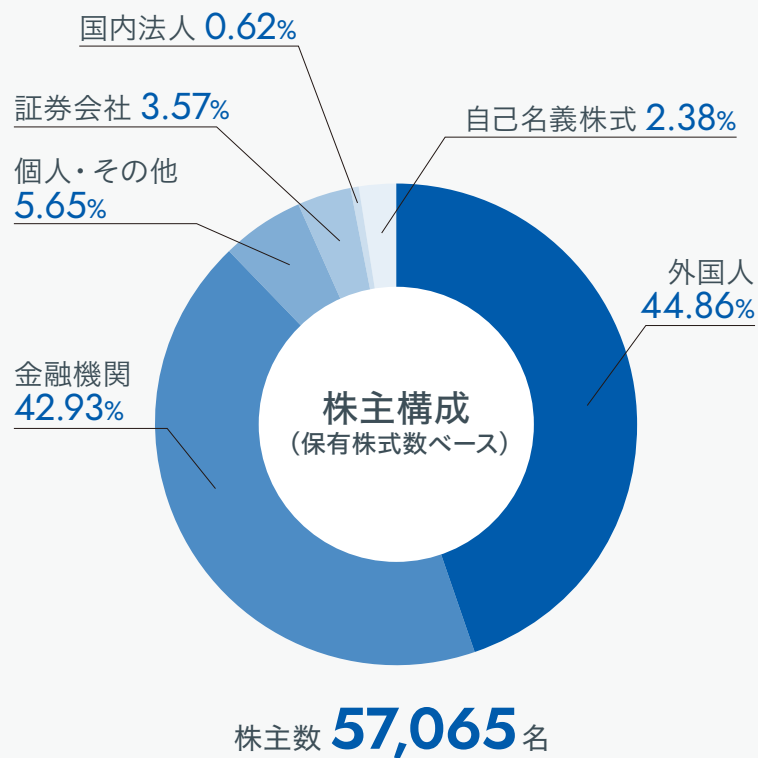
Smart Cane2に搭載されるTDK製品

- SmartMotion® 6軸IMUセンサ
- SmartSound™ マイクロフォン
- SmartSonic™ 超音波ToFセンサ
- TDK多層チップアンテナ
- 電源回路用TDK巻線型メタルインダクタ
- デカカップリング回路用TDK積層フェライトインダクタ



TDKについて - 1

株主の状況 (2025年3月31日現在)



大株主 (上位10名) (2025年3月31日現在)

	株主名	持株数(千株)	持株比率
1	日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	510,320	26.89%
2	株式会社日本カストディ銀行(信託口)	240,451	12.67%
3	JP MORGAN CHASE BANK 385632	63,944	3.37%
4	STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	48,599	2.56%
5	STATE STREET BANK WEST CLIENT - TREATY 505234	40,618	2.14%
6	CITIBANK,N.A. -NY, AS DEPOSITARY BANK FOR DEPOSITARY SHARE HOLDERS	34,444	1.82%
7	HSBC HONGKONG-TREASURY SERVICES A/C ASIAN EQUITIES DERIVATIVES	31,714	1.67%
8	GOVERNMENT OF NORWAY	30,367	1.60%
9	JP MORGAN CHASE BANK 385781	26,869	1.42%
10	JPモルガン証券株式会社	24,873	1.31%

- (注) 1. 持株比率は自己名義株式(46,225,100株)を控除して計算しています。
 2. 持株数、持株比率とも表示単位未満を四捨五入して表示しています。
 3. 自己名義株式は、上記大株主からは除外しています。

TDKについて - 2

役員の状況（2025年6月20日）

取締役（*印は社外取締役）

代表取締役	齋藤 昇
代表取締役	山西 哲司
取締役	橋山 秀一（新任）
取締役	中山 こずゑ*
取締役	岩井 睦雄*
取締役	山名 昌衛*
取締役	勝本 徹*

監査役（**印は社外監査役）

常勤監査役	桃塚 高和
常勤監査役	石川 将
監査役	Douglas K. Freeman** （ダグラス・K・フリーマン）
監査役	山本 千鶴子**
監査役	藤野 隆**

執行役員

社長執行役員CEO	齋藤 昇	執行役員	生嶋 太郎
副社長執行役員	山西 哲司	執行役員	橋山 秀一
専務執行役員	Andreas Keller （アンドレアス・ケラー）	執行役員	Roshan Thapliya （ローシャン・タプリア）
専務執行役員	佐藤 茂樹	執行役員	Ludger Trockel （ルドガー・トロッケル）
常務執行役員	Michael Pocsatko （マイケル・ポチャツコ）	執行役員	筒井 隆雄
執行役員	Albert Ong （アルバート・オン）	執行役員	福地 育雄
執行役員	指田 史雄	執行役員	Joe Kit Chu Lam （ジョー・キット・チュー・ラム）
執行役員	Ji Bin Geng （ジービン・ガン）	執行役員	Jim Tran （ジム・トラン）
執行役員	Werner Lohwasser （ヴェルナー・ローヴァッサー）	執行役員	高橋 毅

株主メモ

上場証券取引所	東京（証券コード：6762）
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
配当基準日	期末：毎年3月31日、中間：毎年9月30日
株主総会基準日	毎年3月31日 （そのほか臨時に必要なときはあらかじめ公告いたします）

定時株主総会	毎年6月開催
公告方法	電子公告（当社のホームページ https://www.tdk.com/ja/index.html に掲載いたします）
単元株式数	100株
株主名簿管理人及び 特別口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社

株式に関するお手続きについて

お手続きの内容	お問い合わせ窓口
配当金の受取方法の指定・変更、 単元未満株式の買取・買増請求、 住所変更、名義変更等	・証券会社等にて当社株式をお持ちの株主様 ▶ お取引のある証券会社等へお問い合わせください。
	・特別口座にて当社株式をお持ちの株主様 ▶ 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部へお問い合わせください。
未払配当金の照会、支払い	・三井住友信託銀行株式会社 証券代行部へお問い合わせください。

お知らせコーナー

● 配当金の受取方法について：

配当金はお受取り忘れのない、安心、確実、スピーディーな、口座振込でのお受取りをお勧めします。

● 単元未満株式の買取・買増請求について：

単元未満株式の買取・買増請求に係る当社に対する手数料は無料となっておりますので、是非ご利用ください。（但し、特別口座の株主様を除き、証券会社等に対する手数料が別途必要となる場合がありますので、ご注意ください）

株主名簿管理人・特別口座管理機関へのお問い合わせ

〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話 **0120-782-031**（フリーダイヤル）
（受付時間：9：00～17：00 ※土日休日を除く）

TDK株式会社

〒103-6128 東京都中央区日本橋二丁目5番1号
<https://www.tdk.com/ja/index.html>